

6月教授会で第1回中間報告を、9月の教授会で第2回中間報告を行い、最終的に、(A)ヒトの群れと世代継承、(B)脳と心の発達と進化、(C)ポスト近代の学び 教育・学習・支援・模倣・継承・伝統、の3つのモジュールからなる構成とすることとした。平成17年度4月より、新たに「発達科学への招待」運営委員会と名称を変え、授業の実施と記録、今後へ向けた検討とを平行して行うことを決めている。

(導入教育「発達科学への招待」検討委員会委員長 蛭名邦禎)

3.2. 学生

3-2-1. 学生委員会

1. 委員会開催及び議題等について

平成16年4月から平成17年3月までの間に計6回の委員会を開催した。議題の主なものは、学生アメニティホール(仮称)関連、発達科学部「学生便覧」の内容見直し、学生の意見に対する学生委員会所掌事項の対応策及び平成17年度入学者選抜試験関連、などである。

2. 委員会活動について

発達科学部において、はじめての学生のためのアメニティスペース(学生アメニティホール(仮称))が作られることに伴い、その基本的仕様について、事務長意見(・学生や外来者が学生便覧、講義要項、時間割り等を閲覧できる場所(机、椅子等)を設けること・ノートPC接続可能なコーナーとともに休憩スペースを広くとる等)をもとに討議し、試案を作成した。また、当該スペースの名称については、学生、職員から公募することとし、平成17年1月～2月にかけて公募を実施した。それに先立ち「名を残せ!」というキャッチコピーで、室名公募のポスターを各所に掲示した。結果、11名34件の応募があり、学生委員会で検討。応募作の1つをもとに正式名称「発達ホール」、愛称「D-room(ディー・ルーム)」に決定した。なお、室名ロゴのデザインについては、造形表現論講座に依頼した。

教務委員会の実施した学生茶話会(平成16年12月1日開催)において聴取した学生の意見の中で、学生委員会に関連すると思われるものについて検討。自習室に関する質問、要望には、上記「D-room」の活用をアピール、情報処理室、図書館等施設の閉館時間が早いとの意見もあったが、日常の利用状況などからみて当面、現行の運用時間帯でいくこと、駐輪場の照明、イノシシ対策については、照明灯の増設、フェンスの強化等を検討すること、喫煙室の設置については世情からみて設置は難しく現行の喫煙場所の維持で様子を見ること、学生印刷室などの学生利用可能な設備の認知度が低いと思われるので、各階に設備案内図を設置するなど、学生に設備の存在・場所を認知させる必要があること、などを確認した。

学生アメニティに関しては、今回のアメニティスペース(D-room)の設置で、大きく向上したと思われるが、学生からは教育関連設備、食堂関連設備、クラブ活動関連設備などに、まだ様々な問題点が報告されており、今後、至急に主体である学生の利用感覚を重視した改良の実装が必要であると考えられる。

(学生委員会委員長 田中洋一)

3-2-2. 入学試験委員会

本委員会の審議事項は、入学者選抜制度に関する事、入学者選抜方法に関する事、入学試験情報の開示に関する事、その他入学者選抜に関する事の4点である。

平成 17 年度から、新学科に移行する関係で、平成 17 年度以降の入学者選抜に関わる事項は「新学科体制入試方式検討委員会」での審議事項となった。

また、平成 17 年度入試から AO 入試を導入するなど、入試制度の大きな変更、改善を行ったが、AO 入試については「AO 入試実施委員会」を設置して審議した。

したがって、入学試験委員会は年度初めに社会人入試専門委員、3 年次編入学試験専門委員、情報開示に係る事項について審議するにとどまった。

なお、一般選抜（後期日程）における小論文試験については、従来、学科毎に問題を課して出題していたが、学科再編に伴って学部共通の入試問題とすることを検討し、その具体化のために、別途「学部共通小論文検討委員会」を設置して対応した。

上記のように、平成 16 年度においては、入学試験の新制度に関わる事項については「新学科体制入試方式検討委員会」「AO 入試実施委員会」「小論文検討委員会」にて各々審議したため、当委員会としては、各種の学生募集要項の作成、入学試験情報の開示など、ルーティンワークともいえる仕事について、細心の注意を払った。

（入学試験委員会委員長 朴木佳緒留）

3-2-3．新学科体制入学試験方式検討委員会

1．平成 17 年度以降の社会人特別選抜の見直し

社会人特別選抜は、発達科学部創設時から社会人が大学教育を享受できる機会を保障するという主旨で実施してきた。この主旨は、生涯学習の理念を標榜する発達科学部にとって重視すべきものであるが、学部創設後 10 年を経過し、入学希望者が漸減するなどの矛盾も現れてきた。そのため、当初の理念を堅持しつつ、新学科にふさわしい内容とすべく、募集人員、入試内容と方法などの見直しを開始した。

社会人の入学は、他大学でも希望者が減少しているが、発達科学部は他大学を比べると志願者が多い傾向にあり、特に医療従事者の入学希望が目立っている。このことを考慮しつつ、学科再編に合わせて募集人員を再配分し、人間形成学科 5 人、人間行動学科 2 人、人間表現学科 2 人、人間環境学科 5 人とした。また、従来は学科毎に選抜試験の内容も異なっていたが、「発達科学を学ぶ」という主旨を明確にして、入試問題を学部で共通にする検討を行った。さらに、従来、平日に行っていた入学試験を、3 年次編入学試験とともに土曜日、日曜日に変更し、担当者の判断により通常の授業を休講にせざるを得ない等の不都合を解消し、合わせて受験者に配慮した。教職員の負担は多少増加したが、通常の授業を妨げないように改善できた。

2．一般選抜試験の改善

新学科にあわせて、一般選抜の教科、科目の配点を決定した他に、後期日程入試で実施する小論文試験を学部統一の内容とするため、新学科から各 1 人と評議員 2 人による「学部共通小論文検討委員会」を設置し、検討した。小論文試験は、知識量では測ることが難しい学習に対する意欲や関心、また理解力、思考力、表現力などの基礎的な能力を問うことを主旨とし、「発達科学を学ぶ」ための基盤となる力を検査することをねらって、学部で共通の問題をとすることとした。検討する中で、各学科の考え方の違いなども議論されたが、発達科学部は個別の学科の寄り集まりではないことを重視して統一問題の可能性を探り、試験問題作成のための人員も含めて合意を得た。

3．その他の業務

平成 17 年度外国人留学生学部入学者の選考方法，平成 17 年度社会人特別選抜学生募集要項など入学試験に関わる実施日程について審議した。また，神戸大学説明会などで高校の進路指導担当者等に向けて，新学科の理念，内容，入試方法の変更等について説明し，意見交換を行った。

(新学科体制入学試験方式検討委員会委員長 朴木佳緒留)

3-2-4 . AO 入試実施委員会

平成 17 年度から人間行動学科において AO 入試を実施した。AO 入試は発達科学部では初めての試みであり，AO 入試実施委員会では細心の注意を払い遺漏なく実施した。

1 . 高校訪問

AO 入試実施委員会，人間行動学科配置予定教員，就職・広報委員会の他，発達支援論コース担当予定教員，人間環境科学科の一部教員の協力により，5 月から 6 月にかけて，近畿地区の高校 37 校を訪問し，主として進路指導担当者に学科再編と AO 入試について説明した。訪問先は過去 3 年間で，1 年につき 3 人以上の卒業生が発達科学部に入学した実績のある学校とした。訪問したことについては，概ね好印象を持って受け入れられたが，AO 入試への高校側の評価は様々であった。ごく大まかには，日頃からクラブ活動等の指導や学校行事に熱心に取り組んでいる高校からは良い評価を受け，受験勉強に力を入れている学校からはそれほど歓迎されない傾向にあったが，学校毎に評価が異なっていた。

訪問の結果は平成 16 年 7 月に教授会報告し，学部内の理解を得ることができたが，一部には教員の負担が大きいことへの批判もあった。また，訪問に併せて人間行動学科の AO 入試案内パンフレットを 5,000 部作成した。実際には，募集人員 12 人に対して，82 人の志願者があり，訪問の成果が得られた。

2 . 人間行動学科 AO 入試の実施

平成 16 年 4 月から，人間行動学科と協力して AO 入試の実施準備を進めた。7 月に AO 入試実施計画書を作成し，入試実施日に至るまでの準備，分担，人員等々細部を詰めた。11 月 6 日に第一次選考，12 月 4，5 日に第二次選考を行い，平成 17 年 2 月 11 日に最終合格者の発表を行った。この間，当該学科の努力により，円滑に入学試験を実施することができたが，入試に係る教員の負担が大きいこと，出願（平成 16 年 10 月 19 日～22 日）から，最終合格（平成 17 年 2 月 11 日）までの期間が長いことが解決すべき課題として残された。今回の結果を踏まえて，人間行動学科において試験の内容を反省，検討中である。

3 . 人間環境学科 AO 入試導入の検討

平成 18 年度からの導入について検討し，募集人員，選抜方法，出願期間，合格者発表日などを審議した。人間環境学科においては，理科系の広範な分野に関心と意欲のある学生を募集し，より丁寧な入学者選抜試験を実施する意向であり，AO 入試実施委員会でも当該学科と連絡，協力して実施を決定した。実施内容等，詳細については目下，検討中である。

(AO 入試実施委員会委員長 朴木佳緒留)

3.3. 研究

3-3-1 . 研究推進委員会

1 . プロジェクト研究の推進

平成 16 年度発達科学研究推進特別経費に基づくプロジェクト研究を募集し，13 の応募を受け